

2013年度 SSH 重点枠韓国訪日研修 (10月11日～14日)



1日目の歓迎夕食会

私達は、韓国のムンサン女子高校と干潟をテーマに交流をしました。共同で学習を行うことにより、私たちの視点だけでなく、韓国の生徒の視点からの意見を聞くことができ、深く学ぶことができたと思います。歓迎会では、うどんを食べ国境をこえた“友達”になることができました。



松田治先生の講演後の記念写真

学習活動1 生徒発表・意見交換会 (2日目)



発表は英語で行いました。聞き取りは難しかったけど準備したパワーポイントのおかげで理解できました。



韓国の生徒たちは主にシファ湖の干潟について、私たちは瀬戸内海の生態系や広島湾の干潟減少と養殖業の変化について発表し、下記①②の意見交換を行いました。

- Q1 なぜ、干潟は失われるのだろうか？
- Q2 失われた干潟はどこかで補うべきか？

《学習の振り返り》

同じ研修を受けましたが、ポストテストの結果は、分かれましました。

《造成すべきでないと考えた理由》

- ・人勝手に失った干潟をまた勝手に作るべきではない。
- ・人為的に造られたものは危険だ。

ポストテスト I (日韓共通) の結果

	造成すべきである	造成すべきである (条件付き)	造成すべきでない (条件付き)	造成すべきでない
ムンサン高校	0	1	1	9
広大附属高校	7	2	1	1

(ムンサン女子高校 11名, 広島大学附属高校 11名が回答)

- ・造成される前のもとの環境に影響が出て、その生態系が崩れるのではないか。

《造成すべきと考えた理由》

- ・もとの環境に考慮して造っているならば、生態系を崩すことなく造れるのではないか。

《感想》

意見の差が出た1つの原因として、英語でのコミュニケーションが不十分だったため、人工干潟の状態があまり伝わらなかったことや、造成に対して国による考え方の違いがあるのだと思いました。どうすれば、お互いの意見をより理解することができるのかを考えるようになりました。

学習活動2 海老干潟フィールドワーク (3日目)



人工干潟では、環境の異なる3つの地点で生物を観察しました。多くの生物が生息していて、ほとんど普通の干潟との差は感じられませんでした。

尾道市海老干潟でのフィールドワーク (午前)



講話では、私たちが心配していた「人工干潟にすむ生物への影響」について理解できたと思います。昼食には、人工干潟で捕れたアサリの味噌汁をいただきました。

国交省、県水産課、漁協の先生方による講話(午後)

《学習の振り返り》

干潟は生物の宝庫であり、水産業や環境保全の点から極めて重要な役割を果たすことを現地実習で感じた。人工干潟は何があっても作らない方が良い、とは思わない。それは干潟のすばらしさを知ったからだ。現地実習では生物だけでなく生物のくらしを見ることができた。人工の干潟でも多額の費用をかけて稀少生物を保護したと聞いた。事前調査は必要であり、とても重要だと感じた。